

平成 29 年度 第 2 回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 30 年 3 月 15 日（木） 午後 3 時～4 時
- 2 場所 生涯学習センター 第 1・第 2 会議室
- 3 出席者 川井座長、岡本副座長、井藤委員、中島委員、長富委員、田村委員、
奥本委員、尼子委員、小澤委員、押田委員（練馬区教育委員会事務局社会教育主事）
（練馬区）文化・生涯学習課長
（事務局）生涯学習センター所長、副所長 2 名
- 4 欠席者 漆澤委員、小山委員
- 5 傍聴者 0 名
- 6 次第
 - (1) 文化・生涯学習課長あいさつ
 - (2) 議題
平成 29 年度事業結果報告について
平成 29 年度施設利用状況について
平成 30 年度事業計画について
主な事業ごとの目標指数について
 - (3) その他
- 7 配布資料
 - 資料 1 平成 29 年度 事業結果報告(平成 30 年 2 月事業終了分まで)
 - 資料 2 平成 29 年度 生涯学習センター施設利用実績
 - 資料 3 平成 29 年度 生涯学習センター（分館）施設利用実績
 - 資料 4 平成 30 年度事業計画(案)
 - 資料 5 主な事業ごとの目標指数について
 - 資料 6 練馬区公共施設等総合管理計画〔実施計画〕(案)参考資料 「文化団体舞台発表促進事業」チラシ
平成 30 年度「練馬 E n カレッジ」パンフレット
平成 30 年度春季「縁ジョイ倶楽部」チラシ
平成 30 年度「春の区民文化祭」チラシ
「向山庭園観桜会」チラシ

8 会議の概要

(1) 文化・生涯学習課長挨拶

小金井靖文化・生涯学習課長挨拶

(2) 議題

<座長> それでは、議事に入る前に、本日の出席委員数の報告を事務局からお願いする。

<副所長> 本日の出席者数は 10 名。なお、漆澤委員、小山委員から所用により欠席の連絡を受けている。また、本日は、傍聴の方はおりません。

<座長> 議事に入りたいと思う。事務局から資料に沿って説明をお願いする。

平成 29 年度事業結果報告について

所長より資料 1 に基づき説明

平成 29 年度施設利用状況について

所長より資料 2、資料 3 に基づき説明

<座長> と について意見等ございましたらお願いしたい。

<委員> 生涯学習センターとしていろいろ事業面等で努力しているのが分かる。我々も協力していきたい。

<委員> 夜間に無料でホールを利用できるという事業があると聞いたが、どのような事業か。

<所長> 平成 29 年度の下半期から「文化団体舞台発表促進事業」を始めている。比較的空きのある平日夜間のホールを利用していただくもので、サークルが会員募集につなげることも含めて発表の機会をもつていただくという目的で行っている。対象団体としては、練馬区文化団体協議会に加盟している団体、生涯学習センター自主サークル舞台連絡会に加盟している団体、生涯学習団体のうち舞台芸術（音楽、芸能等）分野の団体としている。支援の内容としては、平日夜間（18 時～21 時 30 分）のホール使用料と備付器具使用料の免除、ポスター、チラシ等を作成するためのサークル連絡室にある軽印刷機の使用料の免除、ポスター、チラシを生涯学習センター内に掲示、配架ができる。

ホールの一般抽選は 6 か月前の 1 日に行うが、抽選後にホールが空いていれば、予約をしていただき、既に承認されていれば使用料が免除となる。サークル内での発表の場ではなく、広く一般の方を対象とした舞台発表の場として活用していただくもので、平成 30 年度は合唱、落語、リコーダーの 6 団体から応募があった。

この事業は年間で 24 回を上限とし、1 団体では年間 6 回が上限になる。

<委員> 新しい施設ができる度に生涯学習センターの古さが目立つ。施設面で改善できる部分があればお願いしたい。

<委員> 縁ジョイ倶楽部など地に足の着いた講座を行っており素晴らしいと感じた。今後もいろいろ工夫して利用者の方に役立つ施設として取り組んで欲しい。

<委員> サークル文化祭で活動している。役員の方が交代すること等で人が変わることで内容も変化してきており、それを楽しみにしている。

<委員> 実施している講座がたくさんあり、参加者の方が楽しんでいるということがよく分かる。その中で「練馬区武蔵大学特別履修生制度」で定員が 30 名なのに入学者が 13 人と少ないのが目立った。応募資格のハードルが高いのか。受けられる科目は本人が生涯学習センターの閲覧場所で調べなければいけない。区報掲載等で工夫できないか。良い制度なのに定員の半分しか応募がないのはもったいなく残念だ。

<所長> 「練馬区武蔵大学特別履修生制度」は平成 29 年度から対象者を、練馬 E n カレッジ受講生もしくは修了生、ボランティア活動の経験がある方と限定している。それ以前は特に資格要件を設けていなかったので応募が多かった。区、大学がそれぞれ 4 分の 1 を助成する事業になっている。一定程度学んだものを地域に活かしていただくという仕組みを整えるため、平成 29 年度から対象者を限定している。E n カレッジの活動を支援し裾野が広がることにより、武蔵大学の履修生も増やしていきたい。また、どのような科目を履修できるかについては、履修科目がかなり分厚い冊子で曜日ごとに整理されており、たくさんのカリキュラムがあることから全てを区報に掲載することは難しい。

<課長> もう一つ時期的な問題がある。大学からシラバス（科目案内）が届くのが申込みの寸前になってしまうので、履修科目の詳細を区報に掲載することは難しい。ご理解をお願いする。

<委員> データを見て急激に変化することは難しいと思う。利用者が若干減りつつある中で、今実施していることを地道に進めていくことが重要だと思う。奇をてらう

とか急激に変化をすとかではなく、今やっていることは一つひとつ着実に進めていくべきだと思う。

<副座長> 施設の利用率が下がっている中、最近部屋が取りにくくなっている。取れないと別の会場を借りることになる。生涯学習活動全体で考えると、どこの会場でも良いのだが、生涯学習センターに慣れているので、ここから離れていくのは寂しく感じる。また、時間利用が始まっているのに利用率のデータ表記が変わっていない。利用者が利用しやすいような情報の出し方が必要だと思う。形式的でないデータの出し方を一緒に考えていければ良いと思った。

<所長> 今回お示しをしている利用率のデータは、1時間で区切った区分を分母としており時間利用を含んだものになっているが、利用状況が分かりづらいのはご指摘のとおりかと思う。どのような形で利用者の方に提供できればわかりやすいのか、お知恵をお借りしながら考えていきたい。

<座長> まだ縁ジョイ倶楽部とE nカレッジの違いがよく分からない人が多い。73万人の区民がいる。理解してもらえるような更なる努力が必要だと思う。縁ジョイ倶楽部、E nカレッジだと「エン」「エン」となって紛らわしいという声を聞く。

<所長> むしろ「エン」でつながるというということで「縁」と「E n」とをつなげた狙いもある。縁ジョイは楽しい事業にしたいので「エンジョイ」とも掛けている。縁ジョイ倶楽部は正式には「趣味と仲間づくり講座 縁ジョイ倶楽部」であり、趣味と仲間づくり講座を前面に出そうかと検討した経緯もあるが、馴染んでいていた部分もあるので、名称変更については現在考えていない。

<座長> 縁ジョイ倶楽部の前に「趣味と仲間づくり講座」を付ける等してわかりやすくして欲しい。名称を変更する必要はないが、内容が区民に分かってもらえないと意味がない。

平成 30 年度事業計画について

所長より資料 4 に基づき説明

主な事業ごとの目標指数について

所長から資料 5 に基づき説明

(3) その他

所長から資料6に基づき説明

<座長> 長年の希望である生涯学習センターの大規模改修が検討段階に入った。基本設計にあたり今後検討に入ると思うが、ぜひ本懇談会の委員を検討委員会に加えていただき使い勝手のよい施設にして欲しい。

<課長> 一点補足する。生涯学習センターに隣接する建物が老朽化のため撤去するにあたり、陶芸室を来年度生涯学習センターの地下に移設する。また、資料6は実施計画(案)だが、この日程を進めるということでお示ししている。31年度で基本設計、32～34年度で実施設計・工事の予定だが、32～34年度のどこかで工事のために休館せざるをえない。この間の事業展開や施設の利用についても考えていかなければならない。この資料は抜粋だが、学校を含めた練馬区の区立施設は更新時期にきている。財政的に厳しい状況にある。よって施設の長寿命化を図るために、基本的には施設の躯体をいじらない。そのため施設内の壁を壊すことができないことになる。原則的には現在の形・機能を維持することが改修の基本になる。新たな施設を増築するという予定ならば検討委員会を設置することになるが、基本設計段階では担当部署と調整をしながら、この懇談会でもご意見をいただきながら進めていきたいと思う。また、この建物には外壁に貼られている青紫のタイルがあり、落下の可能性もあるため、現在出入口にネットを設置している。改修にあたりタイルを全て取り外さなければならぬ可能性もある。その場合、作業だけでも大変な経費がかかる。その点も含めてご意見をいただきながら進めていきたい。

<座長> 施設の中壁も取っ払うことはできないか。それができないと使い勝手が非常に悪い。

<課長> ほとんどが鉄筋コンクリートの構造壁になっており、切れる壁は僅かしかない。その範囲の中で最善の案を考え、案が出たらこの懇談会でもお示しをする。

<座長> それでは最後に副座長、ひとことお願いする。

<副座長> 議題の中にあつた目標指数というのを一つの手段として、生涯学習センターと各団体とが目標を達成するために、目標を越えるためにどうすれば良いかを考える機会を設けることにより、目標達成以外の様々な良いアイデアが出てくるのではないかと感じた。そのためにできることがあれば協力していきたい。

<座長> 本日はご多忙のところご出席頂き感謝する。これまで2年間の任期、委員の

皆さまのご協力に感謝する。来年度の第1回運営懇談会は8月開催を予定している。
引き続きお願いする委員の皆さまにはよろしく願います。
以上で本日の運営懇談会は終了する。